

校内研究計画

① 研究主題

自ら考え，共に学ぶ児童の育成
～思考力・表現力を育てる算数科の授業改善を通して～

② 主題設定の理由

現代社会は、情報社会化、グローバル化が加速度的に進み、様々な情報が氾濫し、多様な価値観が乱立し、複雑化している。このような時代を生き抜くために、自ら課題を見付け、想像力を働かせて問題を解決したり、他者とのかかわる中で自分の考えを広げ、深めたりすることのできる児童を育成していくことが、今まさに社会全体から求められている。

新学習指導要領にも、「主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」が掲げられており、児童に求められている資質・能力を育むために必要な学びのあり方を考え、授業の工夫・改善を重ねていくことが求められている。

昨年度までの研究により、問題解決的な学習における学習の見通しのもたせ方や課題提示の工夫、学習過程におけるペアワークやグループワークなどについて、一定の成果を得ることができた。その結果、言葉を通して自分の考えを広げたり深めたりしようとする姿も見られるようになった。しかし、その一方で、自力解決はできても、自分の考えを相手に伝え、相手の考えから思考を深めるといった点に課題が残った。全国学力・学習状況調査の結果からも、理由を考えたり、判断理由を説明したりすることができていない児童が多いことが分かった。

そこで、本年度は算数科において、児童が数学的な見方や考え方を働かせながら、自立的・協働的に課題を解決しようとする姿を目指し、より実態に即した授業実践を行っていく。基礎基本の知識理解や技能の習得、定着をベースとしながら、自力解決の積み重ねと伝え合う活動による思考力・表現力の育成を図っていく。まず、自力で課題を解決する学習を積み重ねることにより、自分の考えを整理し、表現する力を育てる。さらに、発達段階に応じた伝え合う活動により、学習内容や相手の考えに対する理解を深め、よりよい考えや方法に気付かせていく。

このような学びを繰り返していくことで、児童が日常生活の中でも数量や図形に目を向け、算数で学んだことを生かして、よりよい方法や内容を選択したり判断したりしながら、実践していく姿につながると考え、本主題を設定した。

③ 研究主題の捉え方

研究主題の「自ら考える」とは、児童一人一人が課題に対して既習の学習内容や先行経験をもとに、進んで自分の考えをもつことであり、「共に学ぶ」とは、児童が相手に自分の考えを分かりやすく伝え、相手の考えを正確に理解し、互いの考えを認め合い深め合えることと捉える。

副主題の「思考力」とは、児童が何らかの根拠を基に考え、情報を取捨選択し、課題解決のために、合理的にじっくり考える力とし、「表現力」とは、算数的な表現を用いて事象を簡潔、明瞭、的確に表す力と捉える。

④ 研究の目標

算数科において、課題の解決や知識・技能を習得させる手立てを工夫し、伝え合う活動を位置付けた授業づくりを通して、思考力・表現力を育てる学習指導の在り方を探る。

⑤ 研究の仮説

児童が目的や必要性を意識して取り組める学習課題を設定し、伝え合う活動を位置付けた授業を展開すれば、課題に対して根拠に基づいた自分の考えを進んでもち、相手に自分の考えを分かりやすく伝え、相手の考えを理解し、互いの考えを認め合い深め合える児童が育つであろう。

⑥ 研究の内容

(1) 算数科の授業づくり

- ・年間、算数1単元の授業実践を学年で計画し実施する。
- ・学習過程を統一し、課題解決型の授業を行う。
- ・伝え合う活動の充実を図る。
- ・発達段階に応じた伝え合う活動における身に付けさせたい力の系統性について整理する。
- ・授業研究会を実施し、実践や成果・課題を共有する。

(2) 基礎基本の習得と学習環境づくり

- ・基礎的・基本的なスキル育成のための国語タイム、算数タイムを実施する。
- ・家庭学習の量と質を充実させる。
- ・読書環境を充実し、各学年のお薦め図書30選の読書活動を推進する。
- ・「北茂安小スタンダード」に基づいて、学習規律を徹底するとともに、学級集団づくりの充実を図る。

(3) 調査資料

- ・標準学力検査 CRT を1月に実施し、全国平均値との比較・分析を行う。
- ・算数科の学習に関する児童の意識調査を5月・12月に実施し、比較・分析を行う。

⑦ 研究の視点

(1) 多様な表現方法の習得のための手立て

算数科における表現方法である、記号的表現、言語的表現、図的表現、操作的表現等、多様な表現方法を身に付けさせることで、相手を意識した表現ができるようになる。

(2) 伝え合う活動の充実のための手立て

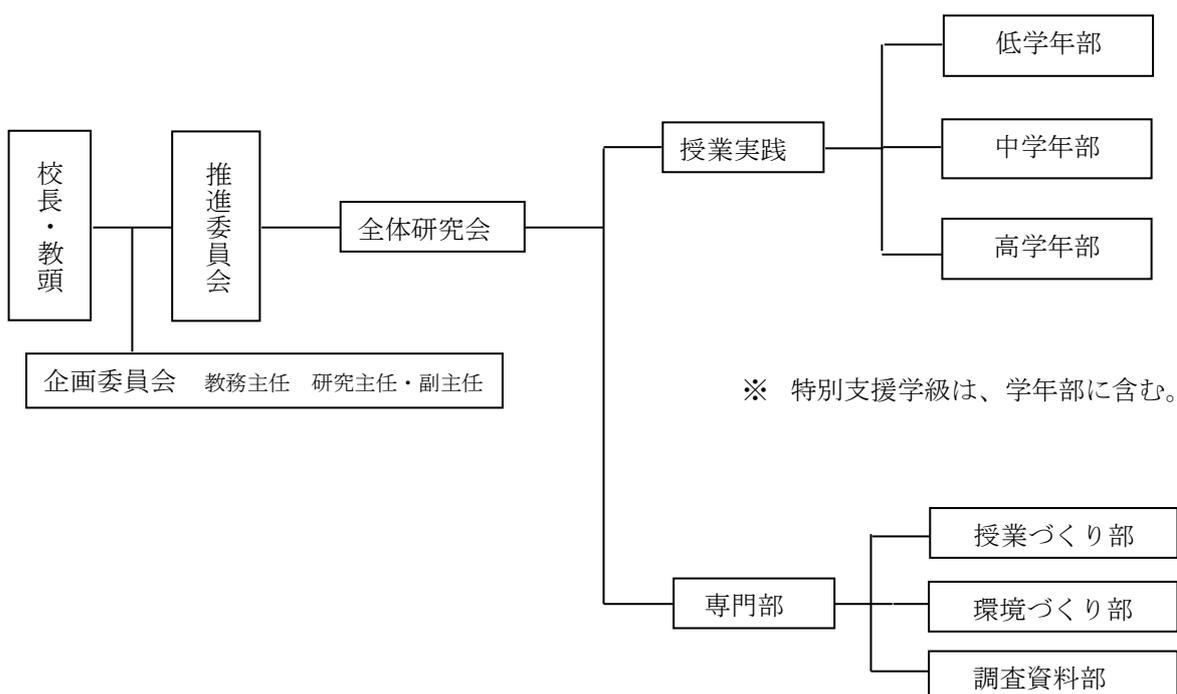
伝え合う活動を位置付けた授業を展開し、考えを伝え合う中で、自他の考えを比較して自分の考えを明らかにしたり、友達の考えを生かして自分の考えを再構成したりさせる。それらの児童の活動を、教師が形成的に価値付けたり、集団解決をコーディネートしたりし、深い学びへと導く。

考えを広げたり、深めたりする伝え合う活動を位置付けた授業を展開すれば、思考力・表現力の育成を図ることができる。

⑧ 学年部テーマ（めざす子どもの姿）

低学年部	中学年部	高学年部
自分の考えをもち、表現する子ども	伝え合う活動を通して自分の考えを広げ、互いの考えに気付く子ども	伝え合う活動を通して、互いの考えを認め、深め合う子ども

⑨ 研究組織



【専門部の活動】

授業づくり部	環境づくり部	調査資料部
算数科の学習課題と学習過程の研究 伝え合う活動における身に付けさせたい力の整理	朝のタイム 学習規律の確立 家庭学習の充実 読書の推進	意識調査の実施・分析 CRTの結果の分析

⑩ 年間計画

1 学期	4 月	研究計画（全体・学年） 学力・学習状況調査（5. 6 年） 教材研究・授業実践
	5 月	専門部会 授業実践時期，単元の決定（学年） 児童の実態調査・意識調査実施 教材研究・授業実践
	6 月	教材研究・授業実践 ○提案授業・講師招聘による講義 ○部研究授業
	7 月	専門部会 教材研究・授業実践
	8 月	講師招聘による講義・理論研究 2 学期以降の教材研究 専門部会
2 学期	9 月	教材研究・授業実践
	1 0 月	教材研究・授業実践 ○全体研究授業（学校訪問） ○部研究授業
	1 1 月	教材研究・授業実践 ○全体研究授業・講師招聘による助言
	1 2 月	教材研究・授業実践 ○部研究授業 児童の実態調査・意識調査実施 学習状況調査（4. 5. 6 年）
3 学期	1 月	教材研究・授業実践 C R T
	2 月	教材研究・授業実践 研究のまとめ 研究紀要作成
	3 月	来年度の構想